

不詳、ヒジキモといふは、其語の轉せしなり、鹿尾とは鹿角に對し云ふなるや、

〔庖厨備用倭名本草〕水草四海藻カイサウ○中 元升○向○日○略 中西國海邊ニ此ヒジキモヲ取テヨク煮テ、日

ニ晒乾シテヨクカレタルヲツキクダキ、米粒ノゴトクナシテ、米ト同ジク飯ニカシギテ飢荒ヲ

スグフ、貧家ハ常ノ食ニモ用フ、米飯ハ白ク、海藻ハ黒シムラ／＼白飯ミエタルヲ、タハフレテ燒

野ノ雪ノムラキエト云、米飯ヲ下ニモリ、海藻飯ヲ上ニモリタルヲバ、ヌリガサキタルト云、

〔本朝食鑑〕水草三鹿尾菜訓比須木毛、今

釋名、六味菜源順載辨色立成而證之、必大平野按、名義

未詳、鹿無尾有短黒毛而似此藻故名之乎、集解、海濱石上生而長二三寸如鼠尾之短、根圓末細尖色蒼黒、晒乾變作純黒色、味甘脆、俗謂能收血、

未試之、今用乾者貨于四方、伊勢志摩尾張參河等州多有、此是古在業平之所詠也、

〔大和本草〕海草八鹿尾菜略○中 海中石ニ附テ生ズ圓ニシテ末尖ル、乾セバ黒色ナリ、煮テ食ス、貧民

米ニマジエテ飯トシ、糧ヲ助ク、

〔伊勢物語〕昔男ありけり、けさうしける女の許に、ひじきもと云物をやるとて、

思ひあらばむぐらの宿にねもゑなんひしき物には袖をしつゝも、二條の後の、まだみかどに

もつがうまつり給はでた、人にておはしけるときのことなり、

〔毛吹草〕伊勢 鹿尾藻 紀伊 鹿尾藻 阿波 鹿尾藻

〔寛政四年武鑑〕本多伊豫守忠京○伊勢 時獻上 四月 鹿尾菜 宗對馬守義功○對馬 時獻上

暑中 長鹿尾藻

松平備前守正升○上總 時獻上 八月 鹿尾菜 松平主計頭忠馮○肥前 時獻上 九月 鹿尾菜

松浦壹岐守清平○肥前 時獻上 御暇年 長鹿尾藻

〔倭名類聚抄〕水雲十七 漢語抄云、水雲毛豆久○今○按

水雲